

静岡大学 理学部 同窓会会報

NO. 2

発行所
静岡大学理学部同窓会
静岡市大谷836
静岡大学理学部内
Tel 0542-37-1111(代表)
会長 赤池大樹

ごあいさつ

静岡大学学長

加藤 一夫



静岡大学理学部の同窓会が設立されて間もなく二周年を迎えられることになりましたこと、御同慶のいたりであります。

卒業祝賀会に同窓会の役員の皆さんも参加しておられましたね。その会場で私は

つたない歌を披露いたしました。さぞかし聞き苦しかったことと思われませんが、あれは大学を巣立ちゆく若い人びとに幸あれと願ったのでありましたので、御無礼の段は御容赦いただきたく存じます。

皆さんの母校である静大の理学部は五つの学科によって構成され、しかも大学院修士課程が設置されて、教育の体制が整い、優れた研究活動がなされていくので、全国的にも評価

の低い学部であります。しかし、それだけに教育・研究体制のいっそうの発展——博士課程の設置——が望まれます。そこで、このところ、全学の自然系の学部

長のかたちと相談をしながら、そのための方途を模索しているところです。それから、これは国立大学全体にかかわることですが、御承知のように、大学入試の複数化が来年度の春から実施に移されることになりました。さしあたっては、

静岡大学はB日程グループに入ります。このことが本学の各学部にとどのような影響を与えることになるかという点では正確な予測のしようがありません。私個人としては、どのような学生たちが入学してこようとも、これから各大学・各学部が新しい歴史を創っていくという心構えが必要だ、と考えておりますが、理学部同窓会の皆さんはどう見ておられましようか。

ともあれ、なんびとにとつても母校は心のふるさとであります。そのことは、会報第一号で足立さんも書いておられます。しかも、校舎のたたずまいは同じでも、母校の内実は日月とともに変化していきまますので、そうした変化にも関心を寄せたいだければ、幸いでもまた、同窓会の皆さんの各方面での御活躍を祈念してやみません。

同窓会活動報告

同窓会長

赤池 大樹

昭和五十九年八月五日に理学部同窓会が発足しました。以来はや二年がたちました。皆様のおかげをもちまして、何とか活動を続けておりますが、何分にもまだ組織的にも資金面でも弱体でありますので、いっそうの御協力をお願い申し上げます。特に静岡県内在住の同窓生諸君には、会の発展のためにも積極的な御支援、御協力をお願いします。

昭和五十九年八月五日
静岡大学理学部同窓会設立
総会

出席者 来賓 九名
同窓生七十九名
記念公演 上野先生

また来年昭和六十二年には第二回総会を開催し三年ぶりに再会を喜びたいと思

昭和五十九年八月三十日
大学側に同窓会設立の報告
赤池、野口、横沢

- 昭和五十九年十二月一日 理事會
- ・名簿の訂正
- ・五十九年度卒業生に関すること
- ・卒業祝賀会の件
- 昭和六十年二月六日 理事會
- ・大学を訪問し、卒業生に会員名簿を渡す。
- 赤池、野口、横沢、前田
- 昭和六十年二月二十三日 理事會
- ・行事計画
- ・会報発行の件
- 昭和六十年三月二十四日 理事會
- ・五十九年度の会計報告
- 昭和六十年三月二十六日
- 卒業祝賀会に出席 赤池、野口、加藤、須崎
- 卒業祝賀会に出席 赤池、野口、横沢、前田、佐伯
- 昭和六十一年二月六日 理事會
- ・大学訪問し卒業生に会員名簿配布を依頼
- 赤池、野口、横沢、前田、佐伯
- 昭和六十一年三月十九日 卒業祝賀会に出席 赤池、野口、加藤、須崎

文理学部同窓会の活動

文理学部同窓会会長 小西 雅彦



静大の文理・人文同窓会もこの三月で三十四回目の卒業生を迎えることになりました。内訳は文理十六回、人文十八回ということになります。その間の活動をふりかえってみますと、昭和五十四年の十一月に大谷の現静大で行われた開学三十周年記念の総会が最も盛大で、約四百名静岡に集めることが出来ました。印象的でした。我々も人集めに半年間一生懸命努力しましたが、学校側も丸山学長をはじめ皆様方が非常に協力して

下さいました。これを契機に着実な活動を展開していただきます。またそれ以後同窓会の機関誌「岳」を年一回発行し、今年で七回となりました。今後とも皆様の協力により親しみのあるものにしてゆきたいと考えています。それから開学三十周年の記念総会の前後から、各支部組織の確立を目指す動きが活発になりました。現在東京支部、東海支部、関西支部は夫々基盤を確立して、年一回の支部総会が行われるようになりました。全体の総会、名簿の発行は五年に一度行っていくことになっています。これからも地道な活動を実践に移しながら組織の輪をひろげてゆきたいと思っております。それからごく最近の活動としては、



設立総会 昭和59年8月5日

「仰秀寮誌」発行の動きがあり、五月二十四日、具体的な打合せを行いました。これは昨年秋昭和二十三年から十数年間仰秀寮の仕事をしておられた茂木郁子さんが静大を退職されたので寮生が六〇名ほど集って彼女の永年の労をねぎらいました。その時に旧制静岡高の人たちと一緒に仰秀寮誌を作ろうということになりました。大正十三年四月に発足した仰秀寮は静岡が静大文理学部にかわった昭和二十四年以降も昔のままの姿で存続したわけですが、

最近の地球科学部の状況(1)

最近の地球科学部

鮫島輝彦



新学説プレートテクトニクスの出現以来二十年が経ちこれによって地球表層の活動の一貫性を持つ解釈が可能になった。この期間中に又月・火星・金星などの表層も地球科学的研究の対象に加えられるようになり、さらに災害防除、火山・地震活動の予知研究などの応用面の研究でも革命的といつてよい程の進展がみられ、地球科学はかつてない隆盛期をむかえつつある。

理学部地球科学科は昭和五十年の発足以来十一年、卒業生は二〇〇名に近い。現在教官十二名、事務職員二名、雇員二名の計十六名の職員、三十四年合せて五十九名の学生からなっている。本年三月檀原教授の停年退職の後任としてニュージールランドのオークランド大学から

三重点プレート境界を含み、伊豆・丹沢の衝突地塊を配する静岡県東部の地殻変動の解明は共同テーマの一つとなっている。三・四年を通して二ヶ年間の卒研を課しており、充分な時間を掛けて掘り下げた研究が行われている。就職・進学は大学院五十、地質会社四十五、教員三十、公務員十五、一般会社四十といった実績で、大学院進学は東大七、筑波大八、名大五など他大学への進学が少くない。女子学生の数が増え本年入学生三十名中八名に達した。

各学科の同窓会よりの報告(I)

大岩時代の追想

数学科 深見謙次



東部循環というバスが、静岡市内を走っていた。時速二十五km前後だったが、遅いとは思わなかった。料金は十円均一で、車内には若い女子の車掌が切符を売りながら、次の停留所名を肉声で告げていた。

東部循環の乗客は、他の市内バスのそれよりも、インターリでエリートだと言われていた。

この東部循環が、新静岡(現在は新静岡センターという)を起点として、仲町回りが東町回り、いまは日本庭園が絶景な、城北公園となっている旧大岩二丁目(元静岡大学理学部所在地)を、かすめて走っていた。

当時この大岩界隈に、ロバで荷車を引くパン売りのキャラバンが、「一休さん」ソングをスピーカーを通して大声で響かせながら、闊歩していた。

「この橋を渡ってはいけませんと言われた一休さんが、端を渡ったのではなく、真中を通ってきました」というストーリーソングであった。

誰もこの商行為を、公害だという発想はしなかった。旧制静岡時代の校舎を継承した静岡大学理学部に、理学部数学教室があった。

構内に学生寮の仰秀寮が君臨していた。昭和三十年に入学と同時に、五棟の一つの悟寮に入寮した。

「玄針会」の紹介

生物学科 鈴木 臻

食費代は一日六十円であった。街ではかけそばが二十円だった。

仰秀寮は旧制静岡高以来の由緒あるものだった。中曾根康弘自筆の落書があったとの伝聞があったが、見たことはなかった。

彼は旧制静岡高で学んだフランス語が、フランスやサミットで役立てたということとを、新聞で読んだことがある。

なによりもまして彼の偉いことは、この静岡時代に共産主義カブレしなかったことだと、誰かが言っていた。仰秀寮、静岡大学理学部、東部循環、そしてロボのキャラバンも、いまその雄姿はない。

時間の経過は、歴史的事実を風化させていく。

物理的变化は、何らかのメディアで記録して、映像化しなければ再現できない。しかし精神的な記憶は、美化こそすれ、すべてがメディアを必要とするものではない。

仰秀寮で寮歌を歌った。悟寮で「美しく青きドナウ」のコーラスをた、きこまれた。

ドナウのシンホニーが、TVやラジオ、ときにはステレオから流れてくると、いつも歌詞があとを追っかけ、いまでも口吟む。

コンダクターのK先輩、悟寮、大岩、恩師……の追想がはじまる。あの時、あの顔、あの歌声。

深見氏より、依頼の主旨と異なるが、「ルーツ」ということで今回のお答えとさせていただきます(文理学部四回卒)

文理学部・理学部生物教室の同窓会を「玄針会」といいます。玄針はオタマジャクシのことですが、大学を卒業したといってもまだ未熟、これからの勉強が大切と、故天野良之先生からこの名称をいただきました。

会員の動向は名簿と近況報告を盛り込んだ会報の定期的刊行をもつて相互交換しており、最新版は本年三月の「玄針七号」六二ページで、会員数は四七〇名となっております。

総会は、毎年三月、大学の卒業式近辺の土曜日、又は日曜日の開催を恒例とし、同時に新入会員の観迎会ともなっております。この総会は文理学部初期に、先生方が卒業生を祝って下さったのがはじまりで、以来一度も欠けることなく続いています。このことは、片山一先生、和田清美先生(文理一回、前会長)、及び卒業生の動向を常に掌握して下さっている教室の鳥井さんなど、多くの先生方のご支援があったからと感謝しています。

夏季には採集、巡検等の野外勉強会を開催していることもありました。この数年は会員個々の活動が盛んになってきたこともあって中断しています。

会員の中に卒業発表会に出席させていただいたり、出版社から依頼を受けて専門書の執筆をしていたり、玄針の趣旨どおりライフワークに取り組んでいる者が多いのも当会活動の特色でしょうか。研究、教育機関から銀行や商社まで、各界各層でオタタマジヤクシ精神をもって活躍している会員に出会いましたら、よろしくお願ひします。(文理学部四回卒)

関西支部結成に向けての動き

同窓会に出席して

中嶋弘子

昨年、静大の同窓会(関西支部)に出席させて頂きました。その二週間程前に、突然同期生から電話でお誘いがあり、一瞬どうしようかと考えたけれど、子供の手も離れたことだし、つい行くわと言ってしまった。当日、会場がわかりにくく、遅ればせながらかけつける。既に来られていた方々も、よく来たねと喜んで下さり、なつかしきで一杯になりました。貫録がついた所以外は学生時代とほとんど変わりがなく、十五年間の空白などすぐにかき消されて、学生の頃のことが、また卒業後のいろんな話に花が咲きました。毎日仕事と家事・育児に追われて生活しているだけに出席するまでは、みんなの話についていけないのではないかと気にしていたのに、知らぬ間に学生気分に戻っていました。ただ残念だったのは、出席して初めてわかったのですが、静大文理・人文同窓会というところで、我々理学部卒業生はオプザーバー的立場であつたということです。文理学部というのは、現在の人文学部のみならず理学部を温められたらと思います。今年中に関西地区での集いを持ってたらと話合っておりますので、皆様方の御支援、御協力よろしくお願ひ申し上げます。(化学科三回卒)



関西支部同窓会でのスナップ 山本仁様提供

事務局より

一、おわび

○会報No.1の「設立総会出席者」で来賓として出席いただいた黒田直先生(地)の名前がもれていました。

○会報No.2の「各学科の同窓会よりの報告」で鈴木 臻様の写真が編集係の手ちがいで掲載できませんでした。

二、計 報

○元物理学教授渋谷元一先生が、五月十七日亡くなられました。謹しんでご冥福をお祈り申し上げます。

三、お願い

○会報の名称募集
良い名称がありましたら

昭和60年度静岡大学理学部同窓会会計報告

(～S61.3.30)

収入の部		前年度より繰り越し	873,343
		59年度入会金	102,000
		会費	370,370
		60年度入会金	228,000
		利息	9,016
		計	1,582,729
支出の部		印刷費	380,055
		送料	125,650
		会議費、文具費等	191,305
		計	697,010
		差引残高	885,719

以上報告いたします。昭和61年3月31日
主事 和田秀樹 金子正純 前田和夫
監査の結果、報告の通り相違ありません。昭和61年3月31日
監事 佐藤洋一 松山初男

編集後記

事務局の方へ御連絡ください。設立後まもない会で、まだ経済的基盤が軟弱ですので、一人でも多くの皆様が会費を納入くださるよう御願ひします。住所変更の連絡配達不能で郵便物が事務局に相当数戻つてきます。転居の際はぜひ事務局へ御連絡ください。支部結成への協力関西支部、名古屋支部の結成への動きがありますので関西、名古屋近隣に在住の会員は、積極的に協力ください。現在関西支部では山端謙一郎君(化学科三回卒)名古屋支部では佐藤昇君(化学科三回卒)が中心になつていきます。

まず原稿をお寄せいただいた皆様にお礼を申し上げます。御多忙中にもかかわらず、突然の依頼に快よく応じて御執筆いただきました。当初支部結成の動きとして、関西支部と名古屋支部を取り上げる予定でしたが、名古屋支部の方は中心的人物が多忙で執筆いただけませんでした。次回には御願ひします。

また他の地域で支部結成の動きがありましたら事務局へ報告ください。

「各科同窓会の活動」は、最近の理学部の状況は今後シリーズで続けるつもりです。関係者の皆様には今後執筆を御願ひすることになりますので、宜しく御願ひします。編集係が慣れないため、いろいろ手ちがいがあつて発刊が遅れましたが、何とかそのはこびとなり肩の荷がおりました。